

平成 25 年度 分野：伝染病診断・細菌 家畜：牛 担当：佐藤(裕)

Mycoplasma dispar の分離状況と薬剤感受性

【 目的 】

マイコプラズマ肺炎の一原因菌である *Mycoplasma dispar* (Md) は、近年、呼吸器病、中耳炎の発症牛において単独感染例が散見されているものの、野外における浸潤状況及び薬剤感受性は不明です。そこで、県内で分離された Md の分離状況の把握と、薬剤感受性試験を実施しました。

【 成績の概要 】

- **材料及び方法**：呼吸器病（104 頭）、中耳炎（11 頭）、健康（92 頭）の各牛の鼻腔スワブ、耳管洗浄液等を材料に変法 BHL 培地を用いた分離培養を実施しました。また純培養 32 株は、微量液体希釈法により、タイロシン（TS）、チルミコシン（TMS）、オキシテトラサイクリン（OTC）、カナマイシン、エンロフロキサシン（ERFX）、チアンフェニコールの 6 薬剤の感受性試験を実施しました。
- **結果及びまとめ**：Md は、呼吸器病、中耳炎及び健康でそれぞれ、24 頭（23.1%）、4 頭（36.4%）及び 22 頭（23.9%）から分離され、そのうち単独感染は 6 頭、3 頭及び 5 頭でした（図 1）。発症牛と健康牛で分離率に差は認められず、広く浸潤しているものと推察されました。一方で、発症牛の単独感染 9 頭は未治療個体であったものの、その他の病原体が未分離だったことから、Md の病変への関与が強く示唆されました。感受性試験ではマクロライド系抗生剤（TS、TMS）、OTC 及び ERFX でそれぞれ、2 株、27 株及び 16 株の耐性化が確認されましたが、90% 最小発育阻止濃度はいずれも低く、薬剤耐性は進んでいないと推察されました（図 2）。

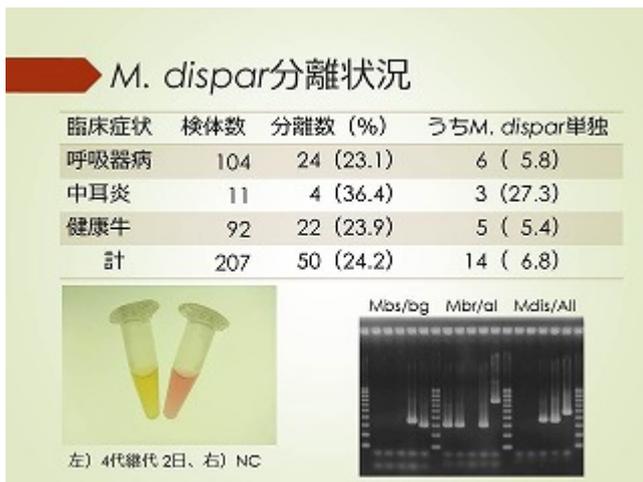


図 1：Md 分離状況



図 2：薬剤感受性成績

【 成績の活用 】

感受性薬剤による治療の指導及び単独感染株の病原性の精査